

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年2月号

森のおくりもの2

NO.377 The Gift from Woods

キセキレイ (セキレイ科)



溪流などに出現するこの野鳥。背中が灰色、お腹が黄色、尾を振る姿が大変かわいらしいキセキレイは、観察の森で出会えるセキレイ科4種類の内の1種です。小川に氷が張り水面が黒く光って、雪の陰影が美しいモノトーンの景色に、黄色いお腹が目を引きます。この時期、「トンボの沢」などの流れの側で見つかるかもしれませんので、上下に尾をフリフリさせる姿をぜひお楽しみください。自然観察センターでは双眼鏡の無料貸し出しもしておりますので、ご希望の方は受付窓口までお申し出くださいませ。 【館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『烏兔忽忽(うとそうそう)』

ついこの間年が明けたばかりだったのに、もうひと月が過ぎてしまいました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去るとよく言うので、では4月以降は何だろうと思っていましたが、これは、月の頭文字に調子よく当てはめた単なるしゃれでした。月日の経つのが早いことを表すかっこいい言葉に『烏兔忽忽』があります。古代中国には、太陽には金烏(きんう)と呼ばれる3本足のカラスが、月には玉兔(ぎょくと)と呼ばれるウサギが棲んでいるという伝説があり、そこから兔は月、烏は日で、忽忽は慌ただしいさまを表し、月日があつという間に過ぎ去っていく様子をいいます。

月日といえば暦です。今年、日本の暦が旧暦(太陰太陽暦、天保歴)から1873年(明治6年)に新暦(現在の暦、太陽暦、グレゴリオ暦)へ改暦されて150年経った節目の年です。改暦は、旧暦の明治五年十一月九日に布告され、1ヶ月もない十二月三日が新暦の明治6年1月1日になるという急な施行だったので、社会は相当混乱したようです。グレゴリオ暦は世界各国で用いられていて国際基準の暦なので、改暦は時代の流れだったのでしょうが、150年前の今頃、当時の人々の慌ただしさは、私たちの比ではなかったと想像します。

この改暦によって歴史にも影響が出ました。歴史年表の日付が新暦の日付に換算されず旧暦の月日のままなので、実際の季節の時期と合わず違和感が出ました。忠臣蔵の討ち入りの日が代表的な話です。日付は元禄十五年十二月十四日なのですが、西暦では1703年1月30日です。記念日となっている12月14日では、事件の起きた東京だと現代の気候では銀杏並木の黄葉の時期で、雰囲気が違うと感じますが、新暦に換算すると、ちょうど今頃の一年のうちで最も寒く雪も降る時期に起きたことがわかり、ドラマで見たイメージの雪景色とも一致します。ただ、旧暦は新暦と違って月の形がわかる暦なので、十四日はもうすぐ満月だとわかり、当日は月明かりで明るかったのだろうかと思える利点があります。改暦されて昔ながらの季節感や意味合いが薄れるなどの様々な問題点が生じましたが、今年で320年前の出来事を旧暦の年の瀬も押し迫り慌ただしい時期で、新暦で寒さが厳しい時期に行われたのだと、どちらも合わせて想いを巡らすのがいいのではと思いました。

次から次へと様々なことが起きバタバタと月日が過ぎていく世の中ですが、ゆっくりとゆとりのある豊かな生活ができるようになればいいですね。

【レンジャー：新田隆一】



冬の森で見つかる生き物たち②

2月は一年で一番寒い月。そんな冬の森を静かに観察してみると、ひっそりと冬越ししているいろいろな生き物たちを見つけることができます。静かに春を待つ昆虫たちを探してみましょう。先月に続き冬越しの生き物たちを紹介します。【レンジャー：齋 正宏】



アオクチブトカメムシの卵
サクラの枝で見つけました。規則正しく
並んでいる様子がとてもきれいです。



イラガの繭(前蛹)
大きさは10mmほど。ウズラの卵のような
模様が特徴です。とても固いです。



ウラギンシジミ
イヌツゲの葉についていました。常緑樹
が好きなようです。成虫で越冬します。



コミズクの幼虫
大きさは11mmぐらい。コナラなどの枝
についています。



ヤマギシモリノキモグリバエ
キラキラと金属製の玉のようです。集
団で越冬します。



ヤママユの卵
直径2.5mmぐらい。卵で越冬しま
すが、抜け殻の繭も目立ちます。

※その他にもセンターの展示室で『冬の森で見つかる生き物たち』の写真展示をしています。是非お越しください。

森の「あれこれ」



「今年の干支は」



ウサギと暮らした事、ありますか？
かわいいです♡静かだしうんちは臭く
ないし(笑)もふもふに癒されます。
それらの「カイウサギ」はヨーロッパ
原産の「アナウサギ」をペットにした
ものです。

一方、野生のニホンノウサギ(以下
ノウサギ)は日本固有種です。観察の
森にもすんでいますよ。とは言うもの
の、用心深く主に暗い時間に活動する
ので、なかなか出逢えません。私も数
えるほどです。左の写真は以前センサ
ーカメラで捉えた動画からおこしまし
た。目が赤いのはカメラのライトによ
るものです。全身の筋肉を躍動させ後
ろ足でぴょんと跳んで前足そして後足
で着地。その後ゆっくりと森に消えて
いった場面。やはり深夜でした。

全国的にノウサギの数は減少してい
ます。理由の一つとして、木々が育ち
すぎて草原がなくなりノウサギがすみ
にくくなったとか。実際観察の森でも
以前よりノウサギの気配が減ってきた
ように感じています。このようにその
姿を見つけるのは困難ですが、雪が降
った翌日、雪に残るノウサギの足跡は
とても特徴があって一目瞭然(写真左
下)。“ああ、元気にやってる？”と
ほっとしたりして。

全国的に寒さや雪の被害が心配され
る時期ですが、雪が降った後の晴れた
日は観察の森を歩いてみてはいかがで
しょうか。足跡や食痕、フンそして…
思いがけない出会いがあるかも知れま
せん。

遅ればせながら、今年は卯年です。
皆さんにも幸運がぴょんぴょん跳ねて
きますように。

【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

凍るような寒さが続く観察の森ですが、目を凝らして小さな世界を覗いてみると楽しい世界が広がっていますよ。写真①のにやけた顔はコシアブラです。写真②のトゲトゲの頭に真っ黒な鼻の持ち主はハリギリ。写真③はまさに宇宙人のクサギです。写真④は「はい」という声が聞こえてきそうなオニグルミ。下の写真には今年の干支のウサギちゃん、そしてとんがりぼうしのこびとくん。片手にガラスの入れ物を持って嬉しそうに手を広げているのは妖精さんでしょうか。OH! it's a small world!!...(^_^♪



顔のように見えていたのは、葉が落ちた部分にできる葉痕です。植物によって葉痕も様々です。茎と葉を繋ぐ部分が落葉によってむき出しになり、維管束の「あと」(葉痕)ができました。葉痕の上にあるのは冬芽です。写真のうさぎちゃんはアワブキ、こびとくんはニワトコです。妖精さんはヤブムラサキです。両腕には萼(がく)や実が残っています。実に付いた水滴に景色が映っていました。(^^♪【レンジャー:菅原幸彦】

2月のイベント & お知らせ

イベント

◆「かわいくまのリースを作ろう」

【日時】2月12日・19日・3月5日(各日曜日、選択) 13:30~15:00

【対象】小学生以上 各日 10名(小学3年生以下は保護者同伴)

【内容】つるの土台にカラマツで作ったくまや木の実を接着してリースを作ります

【持ち物】参加費200円

【申込み】2月7日(火)午前9時より電話受付(先着)



◆森のアート観察会「コケウォッチング」

【日時】2月25日(土)10:00~12:00

【対象】小学3年生以上 10名(中学生以下は保護者同伴)

【内容】アートな視点でコケの美しさに注目して観察し、自然を楽しみます

【持ち物】防寒具、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】2月9日(木)午前9時より電話受付(先着)



◆「野鳥のレストラン」OPEN!

【期間】3月31日(金)まで(開館時間中)

野鳥のためのえさ台を設置しています。えさを食べに来る野鳥を室内のぞき窓からそっと観察することができます

ガイドウォーク

毎週日曜日開催

申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 5日, 12日, 19日, 26日

時間: 10:00~11:30

※12月~3月の冬季は午前1回のみ開催

休館日



6日, 13日, 20日, 27日

毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

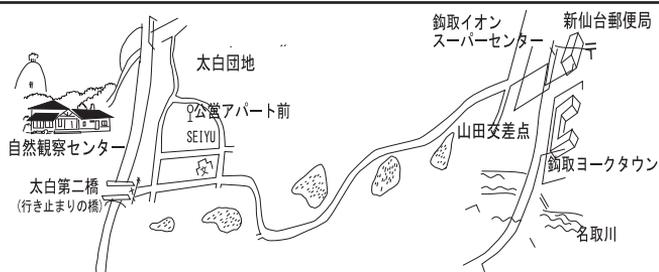
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。

道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。

駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター